

生徒とのふれあい19

阪神淡路大震災の日

谷内 純一



1995年1月17日は阪神淡路大震災の日として記憶されている方が多いことでしょう。この日は別の件で私は忘れられない日となりました。

この日私の二年生のホームの一人の女生徒が失踪したのです。静かで落ち着いた人柄、学業の成績もまったく心配ない生徒で本当に意外な事件でした。

愛媛県の私立高校の男子生徒が、彼女の家の近くに親戚の家があった、そこに度々来ていたうちに彼女と知り合

いになり親しくなっていたようです。その高校生も失踪したので二人で逃げたらしいと言

うことが分かってきま

した。朝4時ごろに彼女は家を出て彼といっしょに小さなバイクで愛媛県の松山市まで行き、港でバイクを乗り捨ててフリーに乗ったらしいところまでは足取りがつかめたのですが、後は杳(よう)として消息がつかま

せんでした。

父親はたびたび学校に来てくれて話をしましたが、娘について「夜、狐火が見える」と言っておびえる」と話したことがありました。私は彼女のふだんの立ち居振る舞いからはちよつと信じられなくて、横田慧さんに話すとそういうことはあり得ると教えてくれました。

その後、一月ほどは情報

報がまったく無かった。その一月は心配で普段より長く感じられました。やがて娘から家庭へ電話が入り、少しづつ判明し

たことはこんなところでした。二人で福岡に行き、そこで知り合った女性の紹介で男子生徒も彼女も水商売の仕事について働いていたのです。紹介してくれた女性は暴力団がらみの女性であったようです。父親は娘が学校から処罰されることを心配してか、情報は小出しにしか知らせてくれませんでした。紆余曲折があつて、やがて二人は無事それぞれ

の家へ帰ることができました。

彼女が自宅に帰っても、私は彼女と一度も会うことがなかったのです。学校長は男女関係については厳しい考え方を持っていて、この件は職員会議にもはかられずに、彼女が自主的に退学するような形で収束しました。ただ、彼女の二年生の成績は認められる形になったので彼女は高知市内の

定時制高校に転校して、その後、無事卒業できたようです。

この事件では人間の心の不思議さ・神秘を強く感じました。

事件の後処理については、学校長の態度に付いて釈然としないままに、受け入れてしまった私は今も忸怩(じくじ)たる思いがします。

この件での生徒への対応に限定して言えば、県教委の生徒指導主事時代には丁寧緻密な仕事ぶりで敏腕を振るつた校長も、生徒部長を経験したことのある私も生徒指導の勘所を外した対処をしたと思えます。たとえ彼女が学校を去るにしても、もつと生徒によりそうべきだったと思うのです。

なお、このときの二年生のホームは二学期中途で主任が降板し、副主任は期限付き講師だったので、急遽私がホーム主任となりました。

生徒の中に教師の言葉には馬耳東風の態度の女生徒がいて、しかも生徒間では存在感を保っていたので、ホーム運営では気疲れしました。あるとき二姉からいき

なり物を投げつけられた：「と友人にこぼしているのを聞いた時は少し驚きました。」

阪神淡路大震災の支援募金は生徒会の呼びかけで、学校ぐるみでとりくまれましたが、落ち着かずまとまりに欠ける私のホームが生徒たちの頑張りで、集めた募金額は全校で一位となったのです。前述の女生徒が募金にとりくむ仲間を鼓舞する発言をして後押ししました。ホーム対抗のスポート大会ではいくつかの部門で、心ならずもながらも優勝し盛り上がりました。この三つは意外でした。ホーム運

祝 米寿

(1937年生まれ)

長寿を心よりお祝い
申し上げます

小西 満子さま
(東京都世田谷区)

1936年生まれですが、紹介が遅れました。大変申し訳ありません。

☆2024年度高退協総会&退職者を励まし新加入を祝う会☆

4月27日(土)を予定しています。3月下旬に議案書・名簿とともにご案内を送付します。年に一度の集まりにぜひご参加下さい。